

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.106

2008/09/20

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

列状に発生したホウキタケの仲間 (下段左から: オオゴムタケ・ホウキタケ・キイロイグチ・コビチャニガイグチ・ベニイグチ) (08/09/08)



PHOTO BY TITO

9月13日西浅井町主催の「キノコとサワギキョウを訪ねて」のハイキングが実施され京阪神を中心に53名の参加があった。今回は、キノコが主題ということもありキノコアドバイザーの小寺会員にガイドをお願いした。参加者のうち特にキノコを観察したいという方々は、小寺会員の班で行動して頂き、62種ものキノコについて懇切丁寧な解説に満足して頂いた。この班には、本会の会員も同行し多くの新しい知見を習得していただいた。8月後半の適度な降雨の結果、キノコの発生も多く時期の選定も適当であったようである。

が今年のキノコの発生は、ただただ見事の一言。アカガシ林内では、サザナミイグチやヒビワレシロハツが「群生」と言いたいほどの発生状況である。「食えるか」「食

えないか」が話題となることが多いのだが、森の分解者という目で見ると、これだけ多くの菌類もまた「山門水源の森」の生物多様性を維持するのに一役も二役もかっていると思うと観察の目も変わってくる。今シーズンの紅葉最盛期までには、まだまだキノコの発生は続きます。ぜひ図鑑片手にゆったりと観察にお出かけ下さい。キノコの同定は、現地での観察が勝負です。写真での同定は、写真撮影の技術のこともあり至難の業ですから。



シロオニタケモドキ ウスムラサキホウキタケ ホオベニシロアシグチ

キツネノエフデ

サザナミイグチ



エントケ初確認 (06/08/03)



「守護岩」付近の発生 (07/08/24)

カエントケ多発

2006年8月3日南部湿原南端展望台付近階段で初めて確認したカエントケだが、この場所ではその後発生が認められない。翌2007年は、「ブナの森」コースのピーク付近のミズナラ枯死木の根



で今年発生したカエントケ (08/08/20)

元に見事な形のカエントケが発生した。ピーク付近では今年も発生があるかと8月以降注意していたが8月20日ピークの昨年発生した場所で、個体は小さいものの5個体の発生を確認。同日伊藤博会員が、この場所から30mほど離れたコナラの枯死木の根元付近で角状の個体を発見。翌日藤本和子会員がこの枯死木の幹に発生している個体を発見。これらのことからミズナラ、コナラの枯死木がある場所であれば他にも発生しているのではないかと調査を実施した。

予想は的中し「ブナの森」周辺の枯死木の約半分には、カエントケが発生していることが確認出来た。また中央湿原西側のコナラの枯死木や「四季の森」のコナラで作成した階段にも発生していることが確認された。発生地点は19地点、発生個



ミズナラの枯死木 (08/08/29)



幹に発生

は、ミズナラ、コナラの枯死木の多くにはカエントケが発生しているものと考えられる。来期は、調査区域を広げて調査をする必要がありそうである。



枯死木の根付近から発生したカエントケ (08/08/29)

体数は81個確認した。こうしてみると山門水源の森で



花形のカエントケ

にも関わらず予想外の来訪者が続き、来訪者ゼロという日は数日という状況で、「山門水源の森」の認知度は益々上がっているようです。その主力は、リピーターが新しい仲間と訪れられるというケースが多いことと、JRのパンフレットを見てインターネットでHPを見てという場合が多いようです。

昨年に引き続き地元塩津



靴裏を洗う塩津小学校生 (08/09/06)

小学校のPTA行事である「ひびきあい活動」で、6年生の児童と保護者が「四季の森」コースを歩き、自然の不思議さと大切さ、親子で語らう素晴らしい時間を過ごしました。ガイドは、本会会員が行いました。他方施設の管理の一貫として「やまかど・森の楽舎」の観察橋の塗装作業も行いました。



観察橋の塗装作業 (08/08/27)